

学修成果目標のウェート付けの検証

多摩大学 経営情報学部

1、学修支援システム「T-NEXT」上の「学修ポートフォリオ」機能を活用しています。

- (1)「カリキュラム・マトリックス」を用いて科目に紐づけた「ディプロマポリシー学修成果目標」をウェート付けし、ポイント化しています。「学修ポートフォリオ」では、5つの目標項目ごとに修得科目で獲得したポイントを積み上げたレーダーチャートグラフを作成し、学修成果を「見える化」しています。
- (2)学生は「学修ポートフォリオ」を見ることによって、ディプロマポリシーのどの項目を多く学修しているかを把握することができます。
- (3)教員も学生のデータを閲覧できるので、学生指導にも有効に活用できます。

2、2019年度入学生カリキュラムでは、5つの目標項目を、1位「知識と理解」、2位「思考と判断」、3位「関心と意欲」、4位「表現と技能」、5位「高い志」の順にウェート付けしました。

3、「2022年度卒業生アンケート」では、卒業する2019年度入学生に対し、「ディプロマポリシー学修成果目標」の身につけ具合を尋ねました。

- (1)同アンケート結果では、「身についた」と自己評価したDP項目の順位は、1位「表現と技能」、2位「関心と意欲」、3位「高い志」、同3位「思考と判断」、5位「知識と理解」となりました。
 - ①カリキュラム上最も力を注いだ「知識と理解」(104ポイント)が卒業生アンケート結果では最下位となりました。
 - ②「表現と技能」(42ポイント)が、卒業生アンケート結果では1位となりました。
- (2)また、本学部では、「ゼミ」が学生からの評価の最上位に位置しています。
 - ①ゼミ科目における重点DP項目は「思考と判断」としています。
 - ②「思考と判断」は、卒業生アンケートでは3位にとどまっています。

4、大学側が設計した学修成果のウェート付けと、学生が自己評価した学修成果の身につけ具合は、一致していないことがわかりました。

学生が自己評価した学修成果の身につけ具合を元に、DP学修成果目標のウェート付けを変更するかどうかの検討に入ることになりました。

以上